

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：32643

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23730843

研究課題名(和文)ポストコロニアルの視点にたった太平洋地域学習の教材開発

研究課題名(英文)Development of Teaching Materials and Methods for learning Pacific Islands from the Post Colonial Perspective

研究代表者

中山 京子(NAKAYAMA, Kyoko)

帝京大学・教育学部・教授

研究者番号：50411103

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円、(間接経費) 960,000円

研究成果の概要(和文)：太平洋地域学習の先行研究について、コロナルな視点にたった教材開発や実践の問題点を指摘した。そして、マリアナ諸島を中心とするフィールドワークを経て資料を収集し、先住民の視点にたち、またグローバル・ヒストリーの考え方に基づいたマリアナ諸島の歴史や社会について書籍にまとめた。

ポストコロニアルな見方を反映させた太平洋地域学習の成果の具体例として、コラージュの技法を用いた作品の展示会出品や、ダンス・歌・詠唱で構成したマリアナ諸島史を描いたショーの発表などを行った。

以上、本研究を通して、問題点の指摘、具体的実践事例の提案、教材開発のための基礎資料の提示、実践成果の公開の手法の提示を行うことができた。

研究成果の概要(英文)：The challenges in the teaching materials and classroom lessons were pointed out from the Post-Colonial perspective. Field research was conducted on the Mariana Islands and other south pacific Islands. I published a book describing the history, culture, and social issues of the Mariana Islands that was based on the global history.

There are many ways to show the results of learning Pacific Islands from the "Post-Colonial perspective". The making the collage arts was employed to express their thinking. Performances that consisted of dancing, singing and chanting provided direct cultural links. We participated in art shows and performances both in Guam and Japan to share the cultural practices learning.

In these research activities, I could point out the challenges and suggest examples of learning procedures and the results of learning, and show the way to share the culture and ideas of local people in Pacific Islands and Japanese people.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：ポストコロニアル 太平洋地域 グアム チャモロ 先住民学習 国際理解教育 教育人類学

1. 研究開始当初の背景

従来、太平洋地域やマリアナ諸島を取り上げた教材や実践は、日本人の視点にたったものであり、対象となっている太平洋の人々の視点やポストコロニアルな視点は含まれていなかった。日本人が太平洋島嶼に対しても「南国の楽園」のイメージの変容をせまり、学習者の認識の変容を記録したものや、日本と歴史的にも現在のツーリズムにおいても関わりが深いマリアナ諸島に着目したもの、その地に生活する当事者である先住民の声を反映させたポストコロニアルな視点を含んだものはほとんどなかった。

国外では、太平洋島嶼の教育関係者は先住民の視点から歴史や社会を語る努力、言語を維持する努力や実践を開始し、ポストコロニアルな視点にたった教科書や教材の開発を進めてきていた。しかし日本の教育研究者は、欧米の教育機関と連携して研究を展開する傾向が強い反面、太平洋地域との連携は薄く、こうした地域をめぐる教材開発は国外の研究から遅れをとっていた。また、ポストコロニアル教育学についても、アメリカやカナダの先鋭的な教育学者らによって理論化され、実践に反映され始めていたが、日本ではポストコロニアル教育学についての研究はほとんど行われてこなかった。

その結果、児童生徒のみならず、一般社会人の太平洋地域に関する認識の乏しさ、理解の欠落が生じていた。一方でハワイやグアムなど、太平洋地域への観光客数は増加の一途をたどり、第一次世界大戦以降の日本による植民地支配構造や第二次世界大戦時の事柄について、現地の人々と日本人の知識理解や感情に大きな差異があり、交流場面における違和感や、現代のツーリズムや基地をめぐる問題に向き合う姿勢に摩擦が生じていた。また、コロニアリズムの構造に抵抗する姿勢に共感的に理解をする感覚が、日本の児童生徒に育っていなかった現状があった。

2. 研究の目的

本研究では、従来の太平洋地域をテーマとした学習活動について、ポストコロニアルな視点からの検討を通して問題点を示し、グローバル時代におけるポストコロニアルな視点にたった太平洋学習の意義を明らかにし、教材を開発し授業実践を行い、意義を検証することを目的とする。

調査や教材開発を通して、太平洋の中でも植民地支配の歴史や日本人移民の歴史、現在のツーリズムなど日本とかわり深いマリアナ諸島地域を中心とし、博物館専門員や地域活動家、行政関係者、教育学者、文化人類学者との連携のもとに、偏りのない理解を深めるための視点を得るとともに、ポストコロニアル教育学の基礎的な理論を構築する。

本研究では、ポストコロニアルとは、「植民地主義時代以降においてさえなお続く支配者による言説や見方に支配されてきた

人々の立場からの抵抗やその視点にたったものの見方」とする。こうした見方を教育に反映するための萌芽的研究とする。

3. 研究の方法

(1) 1年目は文献資料収集とマリアナ諸島とハワイにおけるフィールドワーク、インタビューによる基礎取材を行った。フィールドワークにおいては、グアム教育委員会チャモロ学習局、北マリアナ諸島歴史保存局、Pacific Historic Parksのハワイ、グアム、サイパンの機関の協力を得た。

収集の成果と考察について、研究会や学会で発表し、意見を求める機会を積極的に設けた。

(2) 2年目は、先住民と日系人の視点を組み合わせた教材開発を研究協力者と行いながら補充調査を行い、教材の妥当性について、日本国内だけではなく、現地教育現場での使用の可能性についても協議し、試行実践を開始した。特に大学生を対象としたスタディツアーをグアムにおいて実施し、現地の人々との交流活動を通じた学びの過程を記録し、教材開発や実践の検証に役立てるようした。

成果と考察について、研究会や学会で発表し、意見を求める機会を積極的に設けた。

(3) 3年目は、2年間の蓄積をもとに成果を実践的に検証・表現し、発信した。その方法として、学会発表や報告書の作成に加え、プリコラージュ・アート作品の製作と展覧会へ出展、当事者を交えたワークショップの開催やパフォーマンス発表を取り入れ、より広く成果を共有することを試みた。

こうした表現による成果発表に加え、研究会や国際学会でも継続的に発表し、意見を求める機会を積極的に設けた。

4. 研究成果

(1) 基礎資料の収集と整理

太平洋地域学習に関する先行実践、ポストコロニアル教育学、マリアナ諸島の先住民チャモロと日系移民に関する文献の収集を行った。フィールドワークを通してインタビューを実施し、基地見学や元従軍慰安婦に関する聞き取り、ツーリズム産業と経済状況に関する聞き取りなどを行った。インタビューを経て集めた資料は、従来のステレオタイプな南の島の描き方とは異なるポストコロニアルな視点を反映した教材開発への基礎資料としての意義がある。

(2) 教材開発と実践

教材の開発とその妥当性の検討について、グアム在住のグアム日系人協会の運営スタッフであり劇作家でもある ONEDERA, Peter 氏や、先住民舞踊家 RABON, Frank 氏、ハワイの旬樹湾に拠点を置く NGO 団体である太平洋歴史公園の協力を得ながら研究を進める

ことができた。グアムの日系人の歴史に関するグアムにおける展示への日本語翻訳の協力、大学生を対象としたスタディツアーを開始点としたチャモロ舞踊の教材開発研究、戦争をテーマとした博物館 T. Stell Newman Visitor Center の日本人来館者を対象としたプログラム開発とワークシートの開発研究を当該機関の教育担当者と連携して行った。プログラムの検証とワークシートの評価については、実際に日本人来館者に実施して検討を行った。

(3)成果の検証・表現・発信

国立民族学博物館でのマリアナ諸島に関する展示の調査、博物館と学校教育の連携を活かした教員研修会におけるチャモロダンスをテーマとしたワークショップの実施、グアムの先住民文化維持運動にとりくむ RABON, Frank 氏らを招聘して日本でワークショップを開催、グアムで開催された日本とグアムをつなぐ展示会「East Meets West」への研究者本人と日本人学生がポストコロニアルの視点にたったグアム理解の成果として表現したコラージュ作品の展覧、またその展示会の縮小版展示の大学キャンパス開催、韓国国際理解教育学会大会における本研究発表、グアムのコロニアルな歴史をダンスと歌詠唱によって表現し、ポストコロニアルな主張を込めたパフォーマンスをグアムにて研究協力者らと公開することができた。これらの活動を通して、グローバル時代におけるポストコロニアルな視点にたった太平洋学習は、西洋中心的な歴史観を脱し、複雑な関係性における諸地域間の歴史的・社会的な人々の営みを発掘し、学習者に多層的な視点を育成する意義があることを、実践的な教材開発をふまえて検証することができた。

以上、本研究を通して、ポストコロニアルの視点から太平洋学習に関する問題点の指摘、具体的実践事例の提案、教材開発のための基礎資料の提示、実践成果の公開の手法の提示を行うことができた。

日本人が植民地支配をした歴史があり、かつ現在も日系人が多く存在し、また欧米のコロニアリズムに翻弄されてきた先住民が存在する太平洋地域、特にマリアナ諸島を事例にした本研究により、移民学習と先住民学習の関連をはかることが出来た。これは現代のグローバルな事象である移民と先住民の問題を考える際の思考モデルとなる。また、先住民などの特定の集団を教示の中心にすえ、ポストコロニアル議論を導入することから文化人類学の視点を多分に反映することになる。これまで文化人類学の研究成果を活かした教育研究や教材開発はあまり行われてこなかったが、教育学と文化人類学の融合を本研究において試みることが出来た。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

中山京子、異文化理解および主張を表現する教育活動 - グアム研究を事例に -、帝京大学教育学部紀要、査読有、第2号、2014、pp.197-206

中山京子、社会科における多文化教育の再構築-ポストコロニアルの視点から先住民学習を考える-、社会科教育研究、査読有、116号、2013、pp.35-44

中山京子、グローバル・ヒストリーにおける太平洋地域の意義と歴史教育-マリアナ諸島を中心に-、グローバル教育、査読有、15号、2013、pp.76-88

中山京子、戦争の記憶をめぐるスタディーツアーに多様な視点をどう組み込むか-グアム・スタディーツアーを事例に-、帝京大学文学部教育学科紀要、査読有、37号、2012、pp.15-22.

〔学会発表〕(計4件)

中山京子、Educational Approach to Express the Understandings and Message: Guam Case studies、The 14th Annual Conference on Education for International Understanding、2013年2月23日、全北大学(韓国)

中山京子、トランスナショナルな歴史認識の形成とグローバル教育-パールハーバー教育ワークショップの実践から-、日本グローバル教育学会、2012年9月8日、同志社女子大学

中山京子、社会科における多文化教育の再構築-ポストコロニアルの視点から先住民学習を考える-、日本社会科教育学会、2011年10月22日、北海道教育大学

中山京子、グローバル・ヒストリーとしての21世紀初頭と2011年-アメリカ・太平洋のマイノリティの視点から-、日本グローバル教育学会、2011年9月30日、愛知教育大学

〔図書〕(計3件)

中山京子、お茶の水書房、先住民学習とポストコロニアル人類学、2012、343

中山京子、明石書店、グアム・サイパン・マリアナ諸島を知るための54章、2012、328

矢口祐人、森茂岳雄、中山京子、東京大学出版会、真珠湾を語る-歴史・記憶・教育-、2011年、280

6. 研究組織

(1)研究代表者

中山 京子 (NAKAYAMA, Kyoko)

帝京大学・教育学部・教授

研究者番号：50411103

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

LAGUANA, Ronald

グアム教育委員会・チャモロ学習局・局長

CASTRO, Ronald

The Guam Council on the Arts and
Humanities Agency

ONEDERA, Peter

グアム日系人協会理事

RABON, Frank

Pa ' a Taotao Tano, Creative Director

BALAJADIA, Jaclyn

Pacific Historic Parks,

Educational Specialist